

# 今、なぜデジタルドキュメントか

## - オリエンテーション -



(社) 日本電子工業振興協会  
電子化文書動向調査専門委員会

大野邦夫 (INSエンジニアリング)

# ヒアリング

## タイトル

## 講師 (所属)

ISO9000シリーズと電子化文書管理

大野氏 (INSエンジニアリング)

ユニコードコンソーシアム

小林氏 (システムシステム)

Photo CD

高柳氏 (日本コダック)

Java

北野氏 (日本サン・マイクロシステムズ)

Acrobat

田中氏・蕭氏 (アドビシステムズジャパン)

報告書批判

見城氏 (成蹊大学)

SGML

田中氏 (凸版印刷)

漢字コード

小池氏 (日立製作所)

文書変換

小林氏 (アンテナハウス)

ーツ

樋口氏 (ロータス)

MIDI

山端氏, 近藤氏 (ローランド)

XML

村田氏 (富士ゼロックス情報システム)

NCALS

若鳥氏 (CALS技術研究組合)

電子化文書規格を普及させるには、ユーザに受け入れられる必要がある。

- デジュア・スタンダードでは不十分  
例 : *SGML, ODA, (OSIモデル)*
- デファクト・スタンダードは受け入れられる  
例 : *HTML, PDF, (TCP/IP)*
- コンソーシアム規格 : 今後の課題  
例 : *XML, (CORBA)*

# 提起された問題点

- 電子化文書の規格は欧米のベンダに主導権を握られている
- グローバリゼーションで必要とされる欧米流の文書管理が日本の組織・日本的経営に受け入れられてない

# 日本の組織・日本的経営における 文書管理の問題

- ISO9000の導入が欧米ではリエジニアリングになるが、日本ではコストになる。
  - 日本における品質管理は、日本流にやるべきである。
  - ISO9000のような欧米の制度をそのまま日本に持ち込むから、余分なコストになる。
- 文書承認責任者の形骸化(例：“めくら”判)や文書改ざん
  - しばしば見られる組織ぐるみの文書改ざんや証拠隠滅

# シンポジウムの構成

- ベンダー / ユーザのプレゼンテーション

- 本セッション (PS-7) -

製品がユーザに受け入れられるプロセスの紹介

- *Concept Base* (ジャストシステム)
    - *DocTor/SGM* (INS エンジニアリング)
    - *DOCS Open* (日本ピーシードックス)

- パネルディスカッション

- 次セッション (PS-12) -

日本における文書管理のあり方、規格制定のあり方など  
についての討論